

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

掛川市教育委員会

1 はじめに

本市立学校における「令和3年度全国学力・学習状況調査」の調査結果の概要をお知らせします。本市の結果等を公表することで、市民総ぐるみで成果や課題を共有し、家庭や地域の理解と協力を得て、掛川市の子どもたちを育てていきたいと考えております。なお、本調査は、子どもたちが身に付けるべき学力の一部を測定したものであり、全ての学力を表したものではありません。市全体の傾向や個々の学習状況を把握する資料の一つとして、今後の授業改善に役立てていきたいと考えています。

2 調査結果の概要

小学校では、全国との比較では、国語、算数ともに全国の平均正答率をわずかに下回りました。また、県と比較すると、国語はやや下回り、算数はやや上回りました。しかし、市の正答率は小数点以下を「切り捨て」で示されているため、実際は差がないと考えてよいと判断します。

中学校では、全国との比較では、国語、算数ともに全国の平均正答率を2ポイント強上回りました。また、県との比較においても、国語と数学ともに、上回りました。

今後は、調査結果分析委員会を開催し、掛川市全体の成果と課題について明らかにし、報告書及び家庭向けリーフレットを公表する予定です。

3 市の平均正答率の結果

【全国・県・市の平均正答率】※市と県の数値は、小数点以下切り捨てで公表

小学校	国語	算数
掛川市	64%	70%
静岡県	64.5%	69.6%
全国	64.7%	70.2%
中学校	国語	数学
掛川市	67%	60%
静岡県	65.6%	59.4%
全国	64.6%	57.2%

【全国・県の平均正答率を100とした場合の市の平均正答率の指標値】

小学校	国語	算数
静岡県比較指標値	99	101
全国比較指標値	99	100
中学校	国語	数学
静岡県比較指標値	102	101
全国比較指標値	104	105

4 全国と比較して正答率の高かった主な内容（○）と低かった主な内容（▲）

※全国比

(1) 小学校国語

- 丸山さんの【文章の下書き】の破線部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す。
- 丸山さんの【文章の下書き】の中の傍線部イで、波線部「残されています」の主語として適切なものを選択する。
- ▲丸山さんの【文章の下書き】の中の傍線部ウを、漢字を使って書き直す。
(つみ重ね)
- ▲丸山さんの【文章の下書き】の中の傍線部オで、波線部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する。

(2) 小学校算数

- 直角三角形を組み合わせた図形の面積についてわかることを選ぶ。
- 余りのある除法の商と余りをもとに、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く。
- ▲直角三角形の面積を求める式と答えを書く。
- ▲㊦と㊧の2つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ。

(3) 中学校国語

- 「随時」の意味として適切なものを選択する。
- 参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く。
- 話合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する。
- ▲「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する。

(4) 中学校数学

- 四角形 ABCD が平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する。
- 四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成させる。
- 錯覚が等しくなることについて、根拠となる直線 FE と直線 BC の関係を、記号を用いて表す。
- ▲反復横跳びの中央値を求める。

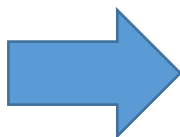
5 掛川の子どもたちの特長（主なものを抜粋）

項目	小学校			中学校		
	掛川市	全国	比較	掛川市	全国	比較
住んでいる地域の行事によく参加している児童生徒の割合	49.8%	26.7%	23.1↑	53.0%	16.3%	36.7↑
学校で、ICT機器を、他の友達と意見を交換したり調べたりするためにほぼ毎日使用していると答えた児童生徒の割合	15.1%	10.0%	5.1↑	34.4%	9.7%	24.7↑
学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていると答えた児童生徒の割合	40.4%	32.3%	8.1↑	40.1%	28.3%	11.8↑
朝食を毎日食べていると答えた児童生徒の割合	87.9%	85.8%	2.1↑	85.6%	81.8%	3.8↑
授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと答えた児童生徒の割合	31.4%	30.3%	1.1↑	44.1%	33.5%	3.7↑
友達と協力するのは楽しいと答えた児童生徒の割合	72.6%	72.0%	0.6↑	72.1%	65.8%	6.3↑
自分にはよいところがあると答えた児童生徒の割合	38.5%	36.2%	2.3↑	39.0%	34.5%	4.5↑
新型コロナウイルスの感染拡大による休校期間中、規則正しい生活を送っていたと答えた児童生徒の割合	32.9%	31.6%	1.3↑	25.6%	21.9%	3.7↑

6 今年度中学校3年生の指標値の推移

平成30年度 小学6年の結果

	静岡県	全国
国A・B	101.5	101
算A・B	101	100



令和3年度 中学3年の結果

	静岡県	全国
国語	102	104
数学	102	105

○全国・県を上回る学力を維持すると共に、国語、数学ともにぐんと力を伸ばしています。

7 正答率が高い子に見られる傾向（クロス集計より）

＜小学校・中学校共通項目＞

- ・平日1日当たりのゲームをする時間が短い。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
- ・自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる。
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しい。
- ・学校が休みの日の1日当たりの学習時間（塾等含む）が長い。
- ・学校でICT機器をほかの友達と意見を交換したり、調べたりするためによく使っている。
- ・学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えている。
- ・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表している。
- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいる。
- ・授業で学んだことを、他の教科の学習に生かしている。
- ・話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりすることができている。
- ・学習した内容について見直し、次の学習につなげることができている。
- ・総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいる。
- ・国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている。
- ・国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしている。
- ・国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしている。
- ・国語や算数・数学の全ての解答を文章や式等で書く問題について、最後まで書こうと努力した。
- ・算数・数学の勉強が好き。
- ・算数数学の勉強は大切であると思う。
- ・算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う。
- ・算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。
- ・算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。

○これらの項目に肯定的に答えた子どもたちが、国語や算数・数学の平均正答率が高い傾向にありました。こういう子どもを育てていきたいです。

8 調査結果より

○学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、小学校で確実に基礎基本の力を身につけ、それを生かして中学校でさらに力を伸ばしている。

「授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」や「友達と協力するのは楽しい」と答えた児童生徒の割合が小・中学校共に全国よりも高く、平成29年の学習指導要領の告示後、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善に力を入れ取り組んできた成果であると言えます。

○学校、家庭、地域が一体となって、子どもを育てている。

全国に比べ、「地域の行事に参加する」と答える児童生徒の割合が大変高いです。また、「朝食を毎日食べている」や「授業では、自分に合った教え方、教材、学習時間になっていた」と答えた割合も高く、地域、家庭、学校が、子どもの学びを支えていることが伺えます。これは、『お茶の間宣言』や『中学校区学園化構想』をはじめとする『市民総ぐるみの人づくり』が進められていることが結果として現れていると考えられます。こうした取組と子ども中心の授業改善を進めていることで、「自分にはよいところがある」という自己肯定感を育むと共に、「友達と協力するのは楽しい」という実感につながり、「人の役に立つ人間になりたい」という未来を拓く子どもを育てることにつながっています。掛川ならではの取組による成果だと考えられます。